

10. 名張の自然

名張の人々は、昔から野や山の自然を大きくこわすことなく、うまく生かしながら生活に利用してきました。そのため、ゆたかな自然が残り、県内の他の地いきにくらべても数少ないめずらしい生き物が多く見られます。

1. オオサンショウウオ

オオサンショウウオは、大きなもので約15メートルまで成長する世界最大級の両生類で、本州の岐阜県より西側と、四国・九州の一部に生息しています。

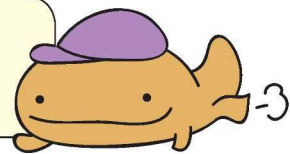


すがたや形が約3千万年前の化石とほとんど変わっていないことから「生きた化石」とよばれています。また、国の特別天然記念物に指定されているため、きよかなくつかまえたり、かったりすることはできません。

小さい間は主に水生こん虫を、大きくなると魚やサワガニなどを食べる肉食の動物です。主に人が生活する場所に近い里山の清流に生息しています。

夜行せいで、夜以外は石の下や自然にできた横あなの中などでじっとしていることが多いので、人前にすがたを見せることはあまりありません。

なぜ、オオサンショウウオは、きれいな川でしか住めないのでしょうか。



2. ギフチョウ

ギフチョウは日本の本州だけにしか生息していない、世界でもき重なこん虫です。太平洋側の多くの産地は消滅し、三重県では伊賀地方だけにしか生き残っていません。



ソメイヨシノ吸蜜

里山にサクラがさき始めるころ、ギフチョウが

羽化してきます。そのすがたを見ることができる期間は短く、わずかに4月の終わりまでです。そのため「春の女神」とも「春のはかない命」ともよばれます。

里山はおもに農業をする人々の生活のために長い間利用されてきました。炭やまきを作るだけでなく、落ち葉やえだ葉はひ料に、また林のほとりにさく花は切り花として使われました。人の手が入った林は、ギフチョウのぜっ好の生息場所でした。今から60年ほど前までは、名張ではどこにでもいたふ通のチョウだったと思われま。ところがげんざいギフチョウは、名張でもほんの一部の地いきにのみ生き残っているだけです。



タチツボスミレ吸蜜

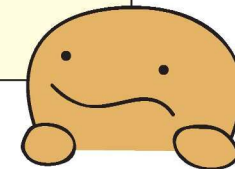


交尾



産卵

なぜギフチョウは、ぜつめつのおそれのあるこん虫になってしまったのでしょうか。なぜ、名張で生き残ることができているのでしょうか。



3. ニッポンハナダカバチ

運動場のすな場にニッポンハナダカバチが集だんですんでいる学校があります。ぜつめつのおそれがあるおとなしいハチです。黒と青味がかかったクリーム色のしまも様がきれいで、上くちびるを長くつき出しているため、鼻が高く見えるのでこの名があります。



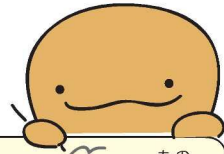
子どもにエサを運んできたメスバチ

このハチは、草が生えていない広いすな地でないと巣を作りません。ところが、すな地でもすぐに草が生えてくるため、地面が固まって巣がほれなくなります。安定して生活できる場所は、海の近くのすなはまや河原ですが、ぼうさいの



メスに交尾をしようと集まるオスバチ

ためのご岸工事やオフロード車の乗り入れなどですな
地がつぶされ、生活できる場所が非常に少なくなっ
ています。いつもみなさんに利用されている学校のす
な場は草が生えず、すながたっぷりあるためかれらに
とってぜひ好の生息場所といえます。



ニッポンハナダカバチはよう虫の成長にあわせてアブやハエなどのえ物
運びこむ進んだ習性を持つ「かりバチ」です。

4. ホタルのすむ名張

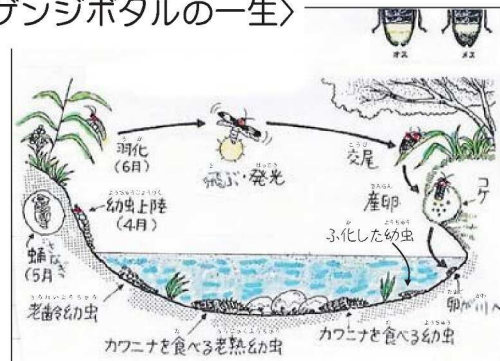
日本には、世界に自まんでできる四季（春・夏・秋・冬）があります。季節ご
とに、その時に見られる花・じゅ木などの植物や生物が大きく変わります。そ
の中で、夏の初めの季節をあらわす生物がホタルです。

日本には50種類ぐらいのホタルが生息していますが、よく知られている光
るホタルは3種類です。特に名張でも多く見かけられる人気のゲンジボタルを
みてみましょう。ゲンジボタルは昔から名張では赤目町丈六地区が有名で「丈
六ボタル」の名で親しまれており、他の地区のものより少し大きいといわれて
います。

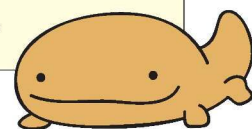
〈光るホタル〉

種類	よう虫	よう虫のえさ	光りかた	大きさ	光る時期
ゲンジボタル (丈六ボタル)	川	カワニナ	2~3秒間かく つ 強い	15~18ミリ (15~20ミリ)	5~7月
ヘイケボタル	田んぼ 水路	タニシ 他	ネキそく 弱い	9~12ミリ	6~8月
ヒメボタル (金ボタル)	山林	カタツムリ 他	早い点めつ 強い	5~8ミリ	6~7月

〈ゲンジボタルの一生〉



これからもホタルが
すみ続けられるように
するには、どうすれば
よいでしょう。



ホタルの育成、かんきょうほごへの取り組みについて話を聞きました。



げんざいホタルは、全国でも川の水が美しくなる目安と
して取り上げられている生物で、文化こん虫ともいわれて
います。時間はかかっても、自然による育て方により、じゅ
んすいで元気な丈六ボタルを残したい。そしていずれは、
わたしが活動しなくても毎年、自然にホタルが飛び交う名
張になることを願っています。ふるさとに残っているいい
ものを次の世代へ引きつぐのも、わたしたちやみなさんの
やくめ役目です。

5. ヒダリマキガヤ

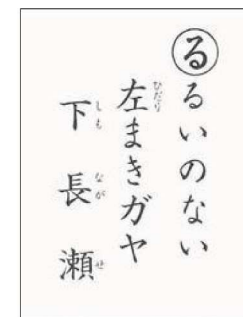


ヒダリマキガヤ



ヒダリマキガヤの実
ヒダリマキガヤの種

長瀬地区にめずらしい大きなカヤの木があります。ふつうのものより種子
(たね)が大きく、表面にはまっすぐではなく、左まきのすじも様が入って
います。ずっと昔から生き続けている木で、その年れいは350~400年と言わ
れています。



名張郷土カルタ

1936(昭和11)年4月に、三重県の天然記念物に
指定されました。

この木を大切に守ってこられた人の話によると、昔
から「家のたからの木」として大切にされていて、た
いへん古い木で弱ってきているので、冬にはひ料をや
りながら、ずっと世話をされているそうです。

【→P20,30,33】